

## 1 単元名 わたしたちの生活と工業生産 自動車を作る工業

## 2 単元について

本単元は、学習指導要領の内容（2）我が国の産業の様子、産業と国民生活との関連について理解できるようにし、「我が国の産業の発展や社会の情報化の進展に関心をもつようにする」を受けて設定したものである。さらに、内容（2）ア「様々な工業製品が国民生活を支えていること」、ウ「工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸の働き」を取り扱うものである。

我が国の国民生活を支える重要な役割を果たしている工業の中でも、自動車工業は素材、部品、製造、販売、整備、運輸など関連する産業の裾野が広い日本の基幹産業である。その効率的な生産システムと高い品質でめざましい発展を遂げ、国別の生産台数では中国に続き世界第2位である。日本がこれほどまでに自動車工業を発展させた背景には、ものづくりの技術の高さ、勤勉な人間性や常に効率化を求め作業を改善していく姿勢などが挙げられる。また、消費者の多様化したニーズに合わせて多品種少量生産が行えるよう生産工程において機械化を進め、一台一台における高品質で無駄のない生産が行われるような工夫がなされたり、環境問題を受け、低燃費車、ハイブリッド車、新エネルギー車の開発を進めたりするなど、現在も常に新しい技術の開発に努めていることも自動車工業が発展している理由である。そこで、5年生の社会科では、自動車工業におけるこれらの努力と工夫を学び、技術立国である日本を自動車工業を通して具体的に学び、働く人の努力や工夫の上に自分たちの生活が成り立っていることを実感させたい。

本学級では34人中30人の家庭で自動車を保有しており、23人が自動車について「便利」という印象を持ち、自動車の価値については前向きに捉えている。しかし、日本車に対するイメージでは、「環境に良い」「性能が良い」と世界で認められている日本車の良さにはあまり気づいていない。児童にとって身近な存在である自動車が実際にどれだけ日本において普及しているのか、また、日本は世界においてどれだけ自動車を生産しているのかを学ぶことで、我々が住む日本が自動車大国であるという意識を持たせることから始めたい。

本単元では、日本の自動車工業において①多種多様な自動車を効率よく作る工夫と、②世界で認められる技術の二本の柱で構成していく。導入では、家庭と教職員の自動車購入動機調べを行い、消費者の多様な要望に応えるための多種多様な生産方法に目を向けていく。さらに、日本の自動車生産量や販売量を読み取ることで、日本が自動車大国であることに気づかせる。その後販売店に見学に行き、実際に豊富な種類の自動車を見たり、新技術について触れたりすることで、それらがどのように作られているのかを調べる意欲を高めていきたい。また、問題解決的な学習を展開する過程で、自分の力で調べる場を設けたり、調べたことを交流させて多面的な見方ができるようにしたりすることで、資料活用の力を高めていきたい。児童はこれまでに農業や水産業について学習し、それぞれの産業で働く人々の工夫や努力、悩みがあることを学んだ。資料活用や表現・技能の面では、写真や図、表やグラフから人々の様子や数値などの変化の様子はとらえることができるものの、その変化の背景にあるものやそこから分かることを考える力までは育っていない。そこで、本単元の指導にあたっては、資料の見方や考え方を育てるために、二つの資料を比較させて読み取る機会を増やし、資料からどのようなことが考えられるかという多面的な見方ができるように工夫していきたい。

### 3 小単元の目標

- 自動車をつくる工業をとおして、我が国の工業生産について意欲的に調べ、自動車産業に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働きを理解するとともに、国民生活を支える我が国の工業の生産の発展について考えようとする。
- 我が国の工業生産の様子から学習問題を見だし、自動車をつくる工業を具体例として、調査したり、地図、統計などの資料を活用したりして調べたことをまとめるとともに、工業生産と国民生活とを関連づけて考えたことを適切に表現する。

### 4 小単元の評価基準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象について の知識・理解
<p>工業生産の様子に関心をもち、自動車をつくる工業の製造の過程や製品の販売、輸送に見られる工夫などについて意欲的に調べるとともに、我が国の工業生産の発展について考えようとしている。</p>	<p>我が国の工業生産の様子について、工業生産に従事している人々が、消費者や社会のニーズに合った新しい技術の開発、資源の有効な利用や確保、環境への配慮などの工夫や努力をして国民生活を支える役割を果たしている、我が国の工業生産の発展にはこれらの工夫や努力が欠かせないことについて考えたり判断したりして、適切に表現している。</p>	<p>自動車をつくる工業を事例として、我が国の工業生産の様子について調査したり、地図、統計などの資料を活用したりして必要な情報を集め、工業生産に従事している人々が、製造の過程や製品の輸送などにおいて工夫や努力していることを読み取って、絵、文章、グラフなどにまとめている。</p>	<p>工業生産に従事している人々が、消費者や社会の多様なニーズにこたえ、環境に配慮しながら、優れた製品を生産するために様々な工夫や努力をしていることを理解している。</p>

5 小単元の指導計画（12時間扱い）

	時数	主な学習活動と内容	指導上の留意点
つ か む   調 べ る ・ 追 及 す る	1	<p>○自動車はどれぐらいの量と種類があるのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の車、教職員の車がどのような理由で選ばれたかインタビューをする。</li> <li>・自動車は消費者のニーズによってたくさんの種類があることを知る。</li> <li>・企業別販売台数 TOP10 と国別生産量のグラフから、日本企業が世界の販売 TOP10 の中に5社入っていること、世界第2位の自動車生産国であることを捉え、日本車がなぜ世界で評価されているのかについて予想する。</li> </ul>	<p>○各家庭、各教職員の購入理由から、消費者の様々な要望に応えるためにはたくさんの種類が必要なこと、日本にはトヨタをはじめ世界的な自動車会社が多数あることから、自動車への関心が高まるようにする。</p>
	<p>自動車工業ではどのような工夫や努力をして生産しているのだろうか。</p>		
	1	<p>○自動車販売店の見学の計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内の販売実績、シェアのグラフを読み取り、本田技研工業株式会社の概要を知る。</li> <li>・HONDA Cars 千葉高品店を通して、調べてみたいこと、見てみたいもの、聞いてみたいことなどを考える。</li> </ul>	<p>○本田技研が日本で有数の自動車会社であることを認識することで、見学への意欲を高める。</p>
	2	<p>○HONDA Cars 千葉高品店の見学をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者の要望に応えるための様々な種類の自動車などを見学する。</li> <li>・様々な要望に応じたたくさんの自動車が注文してからどのぐらいの期間で消費者の手に届くのかを知る。</li> <li>・HONDA が誇る自動車技術を見学する。</li> </ul>	<p>○同じ車種でも、消費者の要望によって様々なオプションが選べることに気づかせる。</p> <p>○消費者の要望によって一台一台違う車を効率よく生産していることに気づかせる。</p> <p>○最新の技術をに触れることで、自動車会社に対して尊敬の気持ちが芽生えるようにする。</p>
4	<p>○見学してわかったことを整理し、関心を持ったことや、疑問に思ったことをグループごとに分かれて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自動車工場のしくみ」「働く人の工夫や努</li> </ul>	<p>○まとめる際には絵や写真、図やグラフを使ってわかりやすく書かせる。</p> <p>○児童の調べたことで足りない</p>	

まとめる・広げる	1	<p>力」「自動車の作り方」など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>途中で情報交換会を開き、各グループがどのように、どんなことを調べているのかを情報交換し、お互いの理解を深める。</li> <li>調べたことを模造紙を使って、他のグループの人たちに伝わるようにまとめる。</li> </ul> <p>○調べたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調べたことをグループで協力して発表し、いままでの学習を通して考えたことや感じたことも発表する。</li> </ul>	<p>点は映像や資料を使って補足する。</p> <p>○調べたことだけでなく、調べてみて感じたことや自分の考えなど、全員が発表するようにする。</p>
	1	<p>○日本の自動車が世界で認められている理由について考える。(本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業別販売台数や HONDA の各国での販売台数のグラフから、日本車が世界で販売されていることを知り、その理由について考える。</li> <li>日本車とアメリカ車を比較したり、日本車を選んでいる外国の方の意見を聞いたりし、日本車の性能が優れていることを知る。</li> </ul>	<p>○二つの資料から、HONDA が世界中に認められていることに気づかせる。</p> <p>○日本車と外車を比べることで、日本車の性能が優れているんだという認識を持ち、具体的な工夫や努力について関心を向けられるようにする。</p>
	1	<p>○日本車の進んだ技術についてさらに調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各自動車会社のホームページを調べ、環境や安全に関する工夫を調べる。</li> <li>調べたことを発表する。</li> </ul>	<p>○日本の自動車会社が環境や安全のために様々な技術を開発していることに気づかせる。</p>
	1	<p>○学習したことをいかして自動車の新聞を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習を振り返り、各自動車会社の努力や工夫を新聞にまとめる。</li> <li>自動車工業について自分なりに感じたことや考えたことを書く。</li> </ul>	<p>○日本の工業を支える自動車工業はどのような工夫や努力があったのかを整理し、自分の考えを書かせるようにする。</p>

## 6 市教研の研究主題との関連

社会の形成者として主体的に判断し行動する力を育てる社会科学習のあり方

本年度主題解明のための方策（市教研社会科部会研究計画案より）

- ① 児童生徒の学習意欲を高めるための学習指導と評価のあり方を明らかにする。
- ② 児童生徒に調べ方や学び方を習得させる指導と評価のあり方を明らかにする。
- ③ 基礎的・基本的な内容の定着を目指した学習指導と評価のあり方を明らかにする。
- ④ 児童生徒の多面的・多角的な思考力を高めるための学習指導と評価のあり方を明らかにする。
- ⑤ よりよい社会を築いていこうという意思を持って行動する力を育成する学習指導と評価のあり方を明らかにする。

本単元では、④に重点的に考えた計画を立案した。

- ④ 児童生徒の多面的・多角的な思考力を高めるための学習指導と評価のあり方を明らかにする。

導入では親と教職員の自動車購入理由調べを行い、自動車会社が消費者の要望に応えるために様々な種類の自動車を作っていることを実感する。次に、近隣地域にある自動車販売店に見学に行き、たくさんの種類の自動車を見たり、自動車が消費者に届くまでの様々な苦勞を実際に聞いたりすることで自動車に対する興味関心を高めたい。また、自動車会社がそれぞれどれだけの車種を用意しているのか、また同一車種であっても消費者の要望によりどれだけ細かく種類分けされているのかを実際の販売店で見ることで、自動車会社の工夫が自分の想像を超えていることを実感させたい。本時では、ホンダの国内外の販売台数の割合の資料と、各国での販売台数の表を見比べることで、日本の自動車が世界の様々な国で実際に販売されていることを実感させたい。次に、日本車の燃費とアメリカ社の燃費を比較する。そこでは、ガソリンの量で走行距離が変わるという環境性能だけでなく、使用するガソリン量で走行距離が違うということから、ガソリンにかかる費用が違ってくるといった経済性にも触れていく。枯渇する資源問題としての「低燃費」だけでなく、お金を節約できる「低燃費」としても扱うことで、児童にとってはより身近な問題として認識できると思われる。さらに、日本車を購入している外国人のインタビューを紹介し、表やグラフでしかわからなかった外国人の日本車に対する評価を具体的に説明してもらおう。一人目の外国人はそれまでに児童が学習した燃費に注目し、経済性に優れた点を考慮している。しかし、二人目の外国人は車内空間を自由に使えるという機能性に着目している。燃費が良いということだけでなく、他にも具体的に優れた点があることを外国人に説明してもらおうことで、今までわからなかった日本車の魅力に気づき、他にも日本車の優れていることはないだろうかという調べる意欲を引き出せるものと思われる。

7 本時の指導（10/12）

（1）目標

○日本の自動車は環境に配慮した努力や工夫があり、世界の様々な国で売れていることを理解する。【社会的事象についての知識・理解】

（2）展開

学習活動と内容	教師の指導・支援	資料等
<p>1. HONDA の国内と海外の販売台数のグラフから、HONDA の自動車が海外で売れていることを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外での販売台数の方が多いな。</li> </ul> <p>2. 主要な国、地域の販売台数の図から、HONDA の自動車が世界の様々な場所で売れていることを学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の様々な国で売れているんだね。</li> <li>・アメリカや中国では特に売れているんだな。</li> </ul>	<p>○HONDA の国内と海外の販売台数の割合を予想させてから提示する。</p> <p>○HONDA の国内と海外の販売台数のグラフと並べて掲示し、二つの資料を関係付けて考えている児童がいたら取り上げて紹介する。</p>	<p>HONDA の国内と海外の販売台数のグラフ</p> <p>主要な国、地域の販売台数の図</p>
<p>日本の自動車が海外でたくさん売れているのはなぜだろうか。</p>		
<p>3. HONDA に代表される日本車がなぜ海外で売れているのか予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の自動車は燃費がいいからじゃないかな。</li> <li>・ハイブリッドカーが環境にいいからじゃないかな。</li> <li>・いろいろな人に使いやすい車もあったね。</li> <li>・安全な自動車の工夫を HONDA のお店で聞いたよ。</li> </ul> <p>4. 日本車を保有する外国の方のインタビューを見て、どのような理由で日本車を選んでいるのか確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガソリンをあまり使わないから日本車を選んだのだね。</li> <li>・日本車は外国の自動車に比べてどれくらい燃費がいいんだろうか。</li> </ul>	<p>○既習内容から、日本車が世界中で売れている根拠を探すように促す。</p> <p>○どこの国の人で、何が一番の理由なのかに注意して見るように助言する。</p>	<p>外国人の方のインタビュー映像</p>

<p>5. 日本車（HONDA・フィット）とアメリカ車（シボレー・ソニック）が1Lのガソリンでどこまで走ることができるのかを比べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フィットは1Lでここからお台場まで走るんだ。</li> <li>・ソニックは幕張までしか行けないんだな。</li> <li>・フィットは2Lでお台場まで往復できる。</li> <li>・ソニックは6L必要だからガソリン代もかかるよ。</li> </ul> <p>6. 本時のまとめをする。</p>	<p>○日本車に対して、アメリカ車がどれくらいなのかを予想させてから提示する。</p> <p>○ガソリンの使用量だけでなく、経済的な面に気付く児童がいたら称賛する。</p>	<p>千葉・東京の地図とフィットとソニックの模型</p>
<p>日本車はガソリンをあまり使わず、ガソリン代も少なくてすむために売れている。</p>		
<p>8. 別の外国の方のインタビューを見て、日本の自動車の良さが他にもあることを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・座席が動くのは日本車ならではの良さなんだ。</li> <li>・他にも日本車が売れている理由はありそうだな。</li> <li>・HONDAのお店では安全について強調していたな。</li> </ul>	<p>○ハイブリッドカーなどの燃費の良さだけではなく、日本の自動車の良さが他にもあることに気付かせ、次時への学習の見通しが持てるようにする。</p>	<p>外国人の方のインタビュー映像</p>